

審査基準

審査項目		主な評価ポイント	配点
業務全般	実施体制	・ 事業を円滑に実施するための適切なマネジメント体制が提案されているか。 ・ 業務遂行において、関係団体などのステークホルダーと連携・協調しながら、適切に設計に反映できる体制が提案されているか。 ・ 施工担当者の設計への参画など、施工技術が設計に反映できる体制が提案されているか。	10
	品質管理	・ 設計・施工の品質を確保するための方法及びプロセスを、適切かつ具体的な計画として示す提案がなされているか。	10
	工程管理	・ 早期整備につながるよう、工期短縮に向けた大胆な提案が、適切な根拠をもって具体的に示されているか。	30
	コスト管理	・ 工事費等について、事業費参考価格の範囲内で、適切な根拠をもって具体的に示されているか。特に、提案者の独自技術等によるコスト縮減の大胆な提案について、当該技術等の内容を示した上で、縮減効果が具体的に示されているか。 ・ 設計中に急激な物価変動が生じた場合に、コスト抑制を図る有効な手法が具体的に示されているか。 ・ 点検・修理・設備更新の負担軽減につながる施設計画の提案、本施設の長寿命化に関する提案、省エネルギー・自然エネルギー利用に関する提案などを示した上で、それらによるランニングコストの縮減効果が具体的に示されているか。	30
	見積価格	・ 見積価格に応じて、以下のとおり採点する。 配点(10点)×（全参加者の最低提案価格／当該参加者の提案価格）	10
	地域貢献	・ 県内企業の登用、県産材の利用、県内伝統工芸の活用、伝統産業技術の活用など、地域の経済・産業を取り込む提案がなされているか。	10
設計業務	コンセプト	・ 事業の基本目標及び施設の使命（ミッション）を十分理解し、県民に親しまれ、誇りとなる施設の具体的なコンセプトが提案がなされているか。 ・ 敷地条件や施設整備の基本的事項等を踏まえ、適切な全体配置計画やゾーニングが提案されているか。	30
	にぎわいづくりへの寄与	・ 徳島駅周辺地区のにぎわい創出や徳島駅を中心とする回遊性向上など、県都のまちづくりに寄与する提案がなされているか。	10
	周辺景観との一体性	・ 事業対象地が都市公園の一部として長年親しまれてきたことを踏まえ、鑑賞や活動を目的としない方も、気軽に休息や散歩などの利用ができるよう、既存公園の代替機能を有する空間として、藍場浜公園全体で親和性、一体性に配慮した提案がなされているか。 ・ 事業対象地が「水都とくしま」の象徴である「ひょうたん島」に含まれていること等を踏まえ、新町川の護岸遊歩道への円滑な動線設定や、共用ロビーの位置や眺望、屋外も取り込んだ空間づくりなど、新町川との親和性、一体性に配慮した提案がなされているか。	15
	既存地下駐車場の利用・解体	・ 既存地下工作物の解体、本設利用、仮設利用又は地盤の健全性・安定性の維持の観点による残置について、工期短縮、コスト縮減、資源の有効活用、解体に伴う廃棄物の発生や騒音・振動などの環境負荷の低減などに有効な提案がなされているか。	15
	動線計画	・ 徳島駅や藍場浜公園東エリア、周辺駐車場など、幅広いアクセス手段に配慮した適切な動線計画の提案がなされているか。 ・ 観客、出演者、主催者、搬出入関係者など、施設利用者の属性に応じて、それぞれが利用しやすい動線計画となっているか。 ・ 国道192号及び市道南出来島本線の2方向からの円滑な搬出入動線の確保に配慮した、適切な動線計画の提案がなされているか。	15
	施設計画 (大ホール)	・ 音楽（クラシック、J-POP等）、オペラ、舞踊、演劇、伝統芸能などの様々なジャンルにおける、興行公演から県民の発表公演まで幅広く対応するため、良好なサイトラインが確保可能な客席配置や、機能性の高い舞台機能を備えるなど、的確な提案がなされているか。 ・ 楽屋や、搬入口、ホワイエ、リハーサル室などの舞台・客席の周辺機能について、利便性の高い諸室配置や動線設定になっているか。 ・ 質の高い音響空間の実現に向け、客席や音響反射板等の適切な形状や素材等の考え方を示すとともに、音響シミュレーションや、残響・音響を調節する方策など、具体的な提案がなされているか。 ・ 舞台設備等について、将来的な技術革新に対応するとともに、メンテナンスのしやすさなどもあらかじめ見据え、中長期的な視点を備えた施設計画となっているか。	30
	施設計画 (スタジオ・活動室等)	・ 多目的スタジオや、活動室、単独利用も検討しているリハーサル室など、各諸室の用途にあった機能の確保や動線設定がなされているか。 ・ 発表会利用も想定する多目的スタジオにおいて、室内楽、舞踊、演劇などの比較的小規模な公演や、講演会・会議等に幅広く対応するとともに、県民による挑戦的、創造的な取組を促進するための必要な機能を備えた施設計画となっているか。 ・ 大ホールと多目的スタジオの間をはじめ、各諸室間の遮音・振動対策が適切に行われているか。	20
	施設計画 (その他)	・ 地震、津波、洪水、火災等の災害に対して、建築・構造・設備計画、避難計画等の防災対策について、総合的かつ合理的な解決策を伴う提案がなされているか。 ・ 省エネルギー性能の向上、再生可能エネルギー活用、廃棄物の発生抑制など、持続可能な循環型社会の形成の実現に貢献する提案がなされているか。 ・ 年齢・性別・国籍・障がいの有無に関わらず、誰もが気軽に来館し、芸術文化に親しむことができるよう、ユニバーサルデザインに配慮した提案がなされているか。 ・ メンテナンスのしやすさなどもあらかじめ見据え、中長期的な視点を備えた施設計画となっているか。	5
	施工計画	・ 工事中に、隣接するあわぎんホールの稼働が停止することがないように、適切な環境対策（騒音、振動、粉じん）及び安全対策（施設利用者の動線確保等）が提案されているか。 ・ 工事車両による周辺道路の渋滞対策や敷地周辺の通行者等に対する安全対策が提案されているか。 ・ 第2駐車場の稼働への影響に配慮した施工方法、工程等の提案がなされているか。	20
施工業務	技術提案	・ 狭小であわぎんホールや幹線道路・河川に隣接した敷地、既存地下構造物の解体・改修、地下水対策、傾斜した支持地盤での杭工事施工など、本工事の工事特性を踏まえ、工事を円滑に進めるための工夫などについて、提案者の「特許権等の排他的権利」又は「特殊な技術」による解決策が提案されているか。	20
	計		280